

 NCJTA NEWSLETTER  
北加日本語教師会

発行/編集 Northern California Japanese Teachers' Association

<http://www.ncjta.net>

第 37 号・2012 年 10 月発行

北加日本語教師会 2012 年の秋の例会  
Saturday, October 27, 2012  
San Francisco State University

会長挨拶



会長挨拶  
グラント文子

インディアンサマーを迎える秋が訪れています。例年の事ながら秋が来るといつもまた一年が過ぎて行くという何か忙しなさを感じてしまいますが、皆様にはお元気でお過ごしのことと存じます。ここにまた北加日本語教師会の秋季例会のご案内を兼ねたご挨拶の時期がやって参りました。春季例会では「日本語教育とテクノロジー」というテーマでの先生方の素晴らしい発表を見て、私のように刺激を受けて会場を去られた方も多いかと存じます。この 30 余年自分が日本語教師として歩んで来た日本語教育界の変遷について改めて考えさせられました。

そのような時期にこの度北加日本語教師会は創設 40 周年を記念してサンフランシスコ日本国総領事館の猪俣総領事より表彰していただくこととなりました。又偶然今回は広報文化センターを勇退なさった元教育コーディネーターの高橋久子さんが「言葉の窓」で自分の長年の在職中の思い出を感慨深く綴ってくださっています。振り返ってみますと現在の「北加日本語教師会」の前身であった「日本語教授会」で大学の先生方を中心に熱心に「日本語」や「日本語教育」について討論していらっしやっただのを若輩だった私は只々目を見張って緊張しながら聴かせて頂いていたのを覚えております。今回の表彰授与はぜひその当時の先生方にもお伝えできたらと考えております。初代の会長を長年務められた故三島先生の後を継いで会長を務めて下さった先生方はこの 20 年間に 7 名にもものぼります。それにその役員の方々を含め大勢の方々の熱意と会員の皆様からのサポートで築き上げられてきた重みのある素晴らしい歴史を感じます。これからもまた 40 年という年月が繰り返され、決して歴史の果てる事のない北加日本語教師会でなくてはならないと改めて思います。

さてその 40 周年記念の秋季例会はカリフォルニア大学バークレー校の長谷川葉子先生が「不自然な日本語の実り」という興味あるテーマでお話しくたします。春のニュースレターの「言葉の窓」で「母語話者の日本語、非母語話者の日本語」という題で我々日本語教師が常に抱えている問題点をついた構文や表現について述べてくださいました。会員の方々からのご要望もあって、今回その続きとしてご講演頂きます。テクノロジーや教授法そのものとはまた違ってこのような角度から日本語教師として日本語教育法についてお話が伺えるのも稀な機会だと思います。どうかぜひご参加ください。また FLANC の他の Interest Session ではサンフランシスコ州立大学の南先生やサクラメント州立大学の増山先生が日本語関係の講演をしてくださいます。詳しくは下記の「秋の例会のお知らせ」や「FLANC からのお知らせ」欄をご覧ください。

では皆様、この秋季例会でお会いできます事を楽しみに致しております。



北加日本語教師会秋季例会のご案内

- 日時：10月27日土曜日  
今回はサンフランシスコ総領事館の総領事からの北加日本語教師会発足40周年記念表彰授与式が9時55分から10時15分まであります。そして秋の通常例会は3時より始まります。
- 会場：サンフランシスコ州立大学、HUMANITIES BUILDING（教室番号は当日掲示致します。）
- 講演：「不自然な日本語の実り」  
カリフォルニア大学バークレー校 長谷川葉子先生

2012年3月発行のNCJTA NEWSLETTER「言葉の窓」に「母語話者の日本語、非母語話者の日本語」と題して、母語話者の中でも容認度評価が揺れる文について書いていただきました。今回のトークでは、その延長として、不自然と思われた構文や表現が現在の日本語を形作ってきたという事実について、明治期の言文一致運動を中心にお話しして頂きます。

尚、秋季例会はFLANCと合同で開催しますので、FLANCのセッションの中から下記に日本語関係のセッションのご案内もさせていただきます。詳しくは「お知らせ」欄の「FLANC」をご覧ください。

- 第3セッション (1:00-1:45) サクラメント州立大学増山先生  
「Introducing Japanese Literature Using Manga "Botchan"」
- 第4セッション (2:00-2:45) サンフランシスコ州立大学南先生  
「National Institute for Japanese Language and Linguistics: Language and Culture: From a Sociolinguistic Viewpoint」

FLANC/NCJTA 例会登録につきましては下記の「NCJTA 会計から」欄をご参照ください。



NCJTA 会計から

NCJTAの会費は一般15ドル、学生5ドルです。2012年度分の会費（2012年4月から2012年12月まで有効、但し2013年度からは1月から12月を一年度とする）を本News Letterに添付してある年会費納入用紙と一緒に郵送して下さるか、秋の例会でお支払いください。昨年までの会費を未納入の方も、今年のみのお支払いで結構です。皆様のご協力をお願いいたします。

秋の例会は、例年通りにFLANCの一部として開催します。先日グループメールを通して皆様にご案内申し上げましたが、NCJTA会員の皆様はグループ登録として事前に\$20お支払いいただくと、FLANCにも終日参加できます。かなりの割引率になりますので、是非ご利用ください。オプションで、お弁当もお申し込みいただけます。（FLANCのメンバーか否かは問いません）。また、今期の会費未納の会員の方は、グループ登録と年会費納入をまとめてお申し込みください。グループ登録の申込用紙は、本News Letterに添付してあります。ご記入の上、下記の要領で小切手を添えてお送りください。

## NCJTA 2012 秋の役員会報告

- 登録料：\$20
- 小切手支払先名：NCJTA
- 小切手の送付先：Kimiyooshi Inomata, City College of San Francisco,  
50 Phelan Avenue A 48, San Francisco, CA 94112
- 締め切り：**10月5日（必着）**（既に会員の方々にはメールでグループ登録のお知らせを致しております。）

NCJTAは2007年から非営利団体となり、寄付の受付が可能となっています。現在、Japan Society of Northern California、IACE Travel、大阪大学から、NCJTA ウェブサイトの広告代として100ドルずつの寄付をいただいております。皆様の中で、広告を出して下さりそうな方をご存知の方は、猪俣まで是非ご連絡ください。（文責：猪俣公克）

### 2012年 秋の役員会報告

日時：2012年8月26日日曜日、午後1時より3時まで

場所：サンフランシスコ州立大学

出席者：加藤（総領事館）、グラント、高松、猪俣、須田、森岡、森川、真木、神原、南（役員名簿順）、オブライアン(記)

#### 議題

##### 1. 会計報告

- 1) 現在登録会員118名、春の例会後8名増加
- 2) AATJより会費重複分払い戻し
- 3) 秋の例会で、本年度未払いの会員のみ12年度会費を徴収し、春の例会で13年度会費（13年度より1月から12月迄を一年度とする）を徴収の予定

##### 2. 秋の例会

10月27日（土）サンフランシスコ州立大学にてFLANCと合同開催する。CLTAC（加州中国語教師会）も合同参加。ダグラス・ブラウン、サンフランシスコ州立大学名誉教授による招待講演（座席に限りあり）。日本語関係の発表予定（南先生、増山先生—フランクのセッション、長谷川先生—日本語教師会の例会）。北加日本語教師会の例会は午後3時より。

##### 3. 秋のニュースレターについて

##### 4. 領事館から報告

- 1) 高橋元教育コーディネーターの後任に、ジョン・チャールトン氏が着任
- 2) 北加日本語教師会発足40周年にあたりサンフランシスコ総領事館より授与される総領事表彰の表彰式
- 3) 11月4日日本語スピーチコンテストを、サンフランシスコ州立大学にて開催
- 4) JETプログラムの紹介のため、大学訪問を要請
- 5) 9月初旬サンフランシスコにてジブリ映画会
- 6) 9月8日南ネバダにて、日本のポップカルチャーについてレクチャーあり

（文責：オブライアン真佐子）

## NCJTA 春の例会報告



## 2012年 NCJTA 春の例会報告



NCJTA春の例会は4月29日午前10時より午後2時までサンフランシスコ州立大学で開催されました。今回の例会には60名以上の先生方が参加し、日本語教育とテクノロジーについて活発な質疑応答が行なわれました。高校レベルでは、ジョージワシントン高校の森川友計先生が3年生のクラスでどのようにテクノロジーを駆使して江戸時代の文化を教えているか、セントイグナシウス高校の高松信子先生が初級のクラスでパワーポイントを使って基本動詞をどのように導入しているかを紹介して下さいました。また、大学レベルでは、サンフランシスコ州立大学の須田恭子先生がパワーポイントを使った単語、文法、読解の効果的な導入の仕方を、サンフランシスコ州立大学の南雅彦先生が「語りと説明文」と題して4コママンガを使った作文教育について紹介して下さいました。その他、サンフランシスコ州立大学大学院生の森俊彦さんによるiPadを使った敬語の教材開発の紹介もあり、内容は多岐にわたりました。お昼には和食弁当をいただきながら教師のネットワークを広げる懇談の時間もあり、有意義な情報交換の場となりました。例会の最後には、5月11日を以てご勇退なさった総領事館ジャパン・インフォメーション・センターの高橋久子教育コーディネーターからのご挨拶もあり、参加者全員で高橋氏と一緒に記念撮影をして、例会は終始和やかな雰囲気で行われました。

(文責：伊藤潤子)

## お知らせ



## お知らせ

### Foreign Language Association of Northern California (FLANC)

- 日時：10月27日（土）
- 場所：San Francisco State University, Humanities Building
- Registration: 8:30 a.m. – 1:00 p.m.
- 1<sup>st</sup> Interest Session: 9:00 a.m. – 9:45 a.m.
- Opening Remarks: 9:55 a.m. – 10:15 a.m.
- (Since the Consulate General of Japan San Francisco will honor NCJTA for its forty years of service to the Bay Area, NCJTA members, please attend the Opening Ceremony.)
- 2<sup>nd</sup> Interest Session: 10:30 a.m. – 11:15 a.m.
- Plenary Lecture 10:30 a.m. – 11:45 a.m.
- (by H. Douglas Brown, Emeritus Professor of English, San Francisco State University)
- Lunch, Poster Contest Winners: 11:45 a.m. – 12:45 p.m.
- 3<sup>rd</sup> Interest Session: 1:00 p.m. – 1:45 p.m.
- 4<sup>th</sup> Interest Session: 2:00 p.m. – 2:45 p.m.
- NCJTA Meeting: 3:00 p.m. – 3:45 p.m.

NCJTA会員の皆様はNCJTAのほうに前もって\$20 お支払いの上（通常FLANCメンバー\$45、ノン・メンバー\$65）、事前登録していただきますと、FLANCにも終日参加できます（FLANCのメンバーか否かは問いません）。本Newsletterに申込書が添付してありますので、ご記入の上\$20を添えて会計の猪俣先生までお送りください（10月5日締め切り）。小切手の支払先名は「FLANC」ではなく、「NCJTA」ですのでお間違いのないようお願いいたします。

- 登録料：\$20
- 小切手支払先名：NCJTA
- 小切手の送付先：Kimi Yoshi Inomata, City College of San Francisco,  
50 Phelan Avenue A48, San Francisco, CA 94112

NCJTA 秋の例会は、従来通り午後 3 時から FLANC の午後のセッションの 1 つとして開催予定です。UC Berkeley の長谷川葉子先生のご講演がありますので、ご期待ください。また、ネットワーキングの場としてご利用いただけるよう極力配慮いたしますので、こちらにもどうかふるってご出席ください。  
(文責：南雅彦)

### お茶三昧：2012 年茶の湯・茶文化に関するサンフランシスコ国際会議

11月10日（土曜日）にサンフランシスコ州立大学(SFSU)と私立サンフランシスコ大学(USF)の共催で茶の湯文化国際会議が開催され、一般公開されますのでご案内申し上げます。日本から特別講師が二人おいでになります。神津朝夫先生（茶の湯史専門）は、新しい視点から利休の侘び茶について日本語で講演なさり、足利将軍家の諸道具や会所・座敷飾りの方式についての書『君台観左右帳記』のご研究で有名な矢野環先生は、茶の湯の名物記について英語でお話になります。その他に日米の研究者4名が茶掛けの墨蹟や籠、立花、ティーリチュアルについて発表を行い、韓国のティーセレモニーのデモンストレーションや、親睦のためのレセプションや晩餐会もあります。会場は昼間の研究発表とデモンストレーションがSFSUで、夕方のレセプションと晩餐会が USFです。会議聴講の事前登録は10月17日消印まで有効で、一般が\$10（学生\$5）と大変お安くなっていますので、ご興味のある方はお誘い合わせの上、是非ご参加ください。別料金でお弁当の注文と晩餐会の申し込みもできます。登録用紙と、日米両語のプログラムは<http://japanese.sfsu.edu>からダウンロードできます。どうかご友人や学生さんにもこういう会議があることをお知らせください。茶の湯について知る事は日本文化を理解する上に欠かせないとも言われています。それでは「お茶三昧：2012年茶の湯・茶文化に関するサンフランシスコ国際会議」でお目に掛かれますのを楽しみにしております。

(文責：マッキオンみどり)

### AP Teacher Community



If you Have you had any close connections with other sensei online? The online support that you can rely on? Here is one new online support program just started for all Japanese teachers for all levels and community supporters!

The College Board has started its own online community called the AP Teacher Community for Japanese language and culture. This online community is where teachers can discuss teaching strategies, share resources, and connect with each other. In discussion boards, you can share strategies, ask questions and engage in lively discussions with teachers worldwide. The resource library has a collection of teacher resources. You can also upload lesson plans or classroom activities, share resources and useful sites. You can receive / provide feedbacks on what works best for you.

Well, we get caught up with daily routines and sometimes forget about existing on such online communities. Thanks for advance Internet technology, daily or weekly digests provide an easy way to keep up with your Community. You can organize how you would like to receive email notifications by selecting your own preferences. You can also receive individual emails to keep what's happening on the Community in real time.

Now, aren't you curious? Please visit: <https://apcommunity.collegeboard.org/web/apjapanese/home>

You do not need to be an AP Japanese teacher to join. Teachers at all levels and any Japanese language and culture enthusiasts are welcome to share their ideas and resources. So please visit us today and become a member! When you apply, please provide your professional contact information such as a

district / professional email address for your membership eligibility. If you have any question regarding this site, please contact Mr. Morikawa (morikawasensei@gmail.com), a moderator for the AP Teacher Community for Japanese Language and Culture. (文責：森川和計)

## 日本語能力試験 (Japanese Language Proficiency Test) のお知らせ

国際交流基金 (Japan Foundation) では、日本語学習者を対象に日本語能力試験 (Japanese Language Proficiency Test) を 1984 年より日本国内だけでなく国外においても実施してきました。日本語能力試験は、習得した日本語の能力を客観的に測定し、これを公的に認定する制度です。西海岸では以前はロサンゼルスのみで日本語能力試験を受験しなければなりませんでしたが、2005 年からサンフランシスコ・ベイエリアでも受験できるようになりました。現在、試験会場はアン・アーバー (ミシガン)、アトランタ、ボストン、シカゴ、ファイエットヴィル (アーカンソー)、ホノルル、ヒューストン、ロサンゼルス、ニューヨーク、フィラデルフィア、サンフランシスコ、シアトル、ワシントン DC の 13 会場です。ベイエリアでは、12 月 2 日 (日) にサンフランシスコ州立大学 (SFSU) で今年度も引き続き日本語能力試験が実施されます。

ちなみに、日本語能力試験は、2010 年から新試験形式を採用し、従来の 4 レベルから 5 レベル、N1 (Advanced)、N2・N3 (Intermediate)、N4・N5 (Beginner) となっています。これは従来の 3 級と 2 級の難易度に大きな隔りがあるという批判に対応したもので、従来の 2 級を N2 と N3 に分割することで、2 級に合格することが隘路とならないようにする、またコミュニケーションをよりいっそう重視した試験にするという意図があります。試験科目は、これまで同様「言語知識 (文字・語彙・文法)」「読解」「聴解」の 3 セクションに大別できますが、最も難易度の高い N1 と、その次に難易度の高い N2 では「言語知識」と「読解」が一つの試験科目として 1 セクション、つまり、全体で 2 セクションになるというような変更点もありますので、ご注意ください。

受験費用は N1 と N2 が 60 ドル、N3、N4、N5 が 50 ドルとなっています。受験手続は、オンラインでも、郵送でも可能ですが、郵送の場合は所定の願書に必要事項を記入し、ロサンゼルスの Japan Foundation, Language Center まで申し込んでください。なお、オンラインでも郵送でも詳細は <http://www.jflalc.org> をごらんいただくか、電話 (323) 761-7510、もしくは E-mail: [noryoku@jflalc.org](mailto:noryoku@jflalc.org) までご連絡ください。受験願書の受付期間は 9 月 4 日から 10 月 2 日までとなっています。(願書受付締め切り日につきましては、本ニュースレター発行日の翌日となりますので、ご了承ください)。日本語教育に携わっていらっしゃる先生方、継承言語としての日本語に興味をお持ちの皆さん、日本語能力試験に日本語学習者がふるって参加されるよう御推薦ください。

また、サンフランシスコは 2 番目の規模で、受験者定員が 600 名です。このように年々大規模になりますと、NCJTA 会員の先生で労働許可をお持ちの方には今年度も試験監督をお願いしなければなりません。よろしく願い申し上げます。(文責：南雅彦)

在サンフランシスコ  
日本国総領事館イン  
フォメーションセン  
ターから



領事館インフォメーションセンターから

### 北加日本語教師会に対する総領事表彰の授与

この度、在サンフランシスコ日本国総領事館は、今年で設立 40 周年を迎える北加日本語教師会に対し、総領事表彰を授与することとなりました。北カリフォルニアにおける日本語教育の発展及び日本に対する理解促進のために尽力し、日米間の友好親善と相互理解の促進に貢献している同団体の功績を称え、表彰状を授与するものです。総領事表彰授与式は、10 月 27 日 (土) に開催される北加外国語教師会 (FLANC) 定例会の開会式に実施される予定です。

## 第39回日本語弁論大会の開催について

在サンフランシスコ日本国総領事館及び北加日米会は、第39回日本語弁論大会を下記の通り開催致します。本弁論大会に関する詳細については、総領事館のホームページにも掲載されておりますので、ぜひご覧下さい。

- 日時：2012年11月4日（日）
  - 中高生の部：9時30分～
  - 大学生・成人の部：13時30分～
- 会場：サンフランシスコ州立大学（Humanities Building 1F, Humanities Auditorium Room#13, 1600 Holloway, San Francisco, CA 94132）

## 第27期JETプログラムについて

第27期JETプログラムの応募に関する情報が、2012年の秋頃より、オンラインにて入手可能になる予定です。応募に関する情報等は、在米日本国大使館ホームページ(<http://www.us.emb-japan.go.jp/JET/>)をご参照下さい。なお、当館のホームページにも、JETプログラム募集広報やJETプログラムに関する詳細情報が掲載されておりますので、ご参照下さい(<http://www.sf.us.emb-japan.go.jp/jet/index.htm>)。

当館スタッフによる学校訪問及びJETプログラムに関する説明会をご希望の方は、JETコーディネーター (jet@cgjsf.org) までご連絡下さい。

### 『言葉の窓』



### 振り返れば……

高橋久子  
元 Senior Education Coordinator  
広報文化センター  
在サンフランシスコ日本国総領事館

在サンフランシスコ日本国総領事館広報文化センター在職中35年の間、日本語の先生方から多大なご協力を頂きながら日本語教育振興、JETプログラム、国費留学などの教育分野に携わってまいりました。この紙面をお借りして感謝の意を表したいと思います。



振り返れば35年「瞬きのごとく」のスピードで流れ去りはしたものの、その時間にズームインしていくと、数々の仕事が蘇り感慨にひたります。

仕事の開始と同時に総領事館館外でも20年程日本語を教える機会に恵まれ、日本語教育普及の大切さを実感することとなりましたが、当時の広報文化センターでは日本語教育振興活動はほとんどなかったと言ってよい程でした。そんな時に、北加日本語教師会の存在を知り会合に参加させて頂くようになりました。当時は、今のように日本語教育に関する情報が収集できるインターネットはなく、手作りの教材を持ち合い共有するなど、日本語教師が情報交換できる唯一の重要な場になっていたと思います。同教師会と親交を深めていったのは、サンフランシスコ州立大学の日本語学科の教授でいらした故三島登志子先生が会長の時でした。同大学で私が修士課程を勉強していた頃、スーツをお召しになりキャンパスを凜として歩かれていた先生のお姿を遠くから畏敬の念を持って拝見していたものです。お仕事でまさか一緒できるなどとは夢にも思っておりませんでした。当館で仕事をしてお陰で幸運にも三島先生に再びお会いできたのです。同教師会の定例会合では、生来の先生の明るさとエネルギーで日本語の先生方を導かれていたお姿はまだまだ鮮明に記憶しているところです。故三島先生は、30年にわたり

米国における日本語及び日本文化の研究・普及並びに日本語教師の育成・指導にご尽力され、日本語教育分野で貢献された功績が高く評価され1996年7月に日本国政府より勲四等瑞宝章を受章されました。こうして、日本語教育に関わるお仕事を通して三島先生をはじめ、素晴らしい沢山の先生方に巡り会える機会が与えられた事は、私の一生の宝です。

また、北カリフォルニア州の高校レベルでの日本語の先生方は変遷を経て現在は加州日本語教師会（CAJLT）の会員ですが、1990年頃には高校レベルの教育機関、学習者数の急増にともない、北加日本語教師会とは別個に、高校の日本語の先生方を対象にした教師会を設け、ニーズに合った集会にするのが必要ではないかとの提案があったのも故三島先生からであり、その結果発足したのが Northern California Secondary Teachers of Nihongo（NorCSToN）（北加中等教育日本語教師会）です。更に1992年に新たに改名されSouthwestern Secondary Teachers of Japanese（SWSTJ）（西南部中等教育日本語教師会）となりました。SWSTJは、日本語弁論大会を5年程開催し、その後廃止となりました。私も何年か審査員としてお手伝いさせていただきましたが、非常に多くの生徒さんが熱心に参加し盛況だったのを覚えています。その後先生方から在サンフランシスコ日本国総領事館広報文化センターで日本語弁論大会を開催して欲しいとの多くの要請があり、日米交流150周年記念事業の一貫として北加日米会との共催で2004年に中高生日本語弁論大会と大学・成人日本語弁論大会、2005年に小学生お話大会を開催するに至ったのです。非常に沢山の準備を必要とする企画ではありましたが、同大会会場に応援に来られた父兄には立派に日本語でスピーチする我が子の姿を見て日本語への理解を更に深めてもらうことができていると思います。同大会終了後には、参加した教育機関の校長宛に日本語の先生と生徒が一体となり全力を尽くして同大会に挑んだ旨の報告をお送りしてきました。日本語教育への発展に少しでも繋がるようにとの願いが伝わったのではと自負しております。また、年々同大会を重ねていくにつれ、参加者の日本語能力の向上には目を見張るものがあります。生徒を同大会に参加させることは、先生にとって大変なご苦勞であることは承知しておりますが、演壇に上がり外国語である日本語でスピーチをする生徒の勇気は、後に確かな自信に繋がっているというコメントも頂いております。同大会開催の意義を再確認できる喜ばしいコメントでした。

（注）現在北加日本語教師会は、K-12、大学、継承語日本語学校（日本語学園）である全学年レベルを含む日本語の先生方を対象にした教師会です。

日本語教育は35年前の状況とは大きく変わり、世界の133カ国で行われ、約365万人の学習者、米国では、約14万人の日本語学習者数となっておりますが、この数字には、日本語を学んで自国に戻った元JETプログラム参加者数は含まれておりませんので、この機会に特記させていただきます。

英語教育の充実や国際交流の進展を図る事を目的として同プログラムは1987年に開始され2012年に至るまで、現在では世界40カ国が参加し、参加者数約55,000名、また在サンフランシスコ日本国総領事館からは過去25年間に3,820名の参加者を日本に送り出してきました。当館のJETプログラムは、日本語の先生方のご尽力のお陰で、ここまで成長する事ができました。

日本語学習経験の有無に拘わらず参加者が全員日本に到着するなり実生活に突入り、日本語を学ばなければならない環境で仕事に就きます。任務を終了し自国に戻る時には、個人個人の日本語習得量の差はあれ日本語を学んでくるのです。同プログラムに参加するまでは日本と無縁だったのに、日本語教師を目指す人も出ています。これぞ同プログラムの副産物だと喜びの念に尽きません。

同プログラム日本出発前オリエンテーションの一貫として日本語学習経験のない参加者のみを対象とした初級日本語講座を設け、弱輩ながら長年講師を担当しました。クラス受講（6回）終了時には、皆簡単な自己紹介ができる程度になり、日本に飛び立ちました。2年後（2009年）その受講者の一人がサンフランシスコに戻って、当館に挨拶に来てくれたのですが、難しい尊敬語も上手に駆使できる程に習得した日本語には思わず聞き惚れて感涙してしまいました。今その青年は大学で仕事に就いています。同プログラムが生んだ素晴らしい日本語学習者です。また、数年前日本に帰って 在日米国大使館を訪れた際、そこで外交官として日米の橋

渡しに貢献している元 JET プログラム参加者 3 名にも会いました。活躍する姿を目前にし、これぞ仕事冥利につきると感激したものです。このように元 JET プログラム参加者は広い分野で習得した日本語を駆使し活躍しています。日本語を学ぶ動機がなんであれ、アメリカの中で、世界の中でもっともっと多くの人に日本語に親しんで貰う事を願うばかりです。

時代が前後しますが、もう一つ日本ブームを巻き起こすきっかけとなり、日本語教育にも影響を与えたと思われるものにテレビドラマがあります。それは James Clavell 著の小説「Shogun」をドラマ化したもので、1980 年 9 月に NBC 全米放映（5 回シリーズ）され、大変な人気を呼んだものです。Richard Chamberlain（Anjin-san）、三船敏郎（とらなが）、島田陽子（まりこ）、フランキー堺など豪華な配役も楽しめました。VCR のない時代だったため、「Shogun」を見ようとテレビの前に座り込むためレストランや映画館の客数が減った程でした。この時期に米国に日本の食べ物「すし」が定着し始め、また日本語を学んでみたいという興味を起したきっかけにもなったのです。「Shogun」シリーズが終了した後には、日本語学習者が急増して大変ですという日本語の先生方から広報文化センターに、お電話を頂いたものです。その頃は今後日本語ブームはこのまま継続していくだろうかとの論議もありましたが、結果としては、すしはアメリカ語として定着し、日本語学習者は増えていく事になりました。メディアの計り知れないパワーを感じたものです。

当時を振り返り、アメリカ合衆国内の日本語学習者数（国際交流基金）をご参考までに掲載いたします。

	(学習者数)
2009 年	168,732
2003 年	140,200
1993 年	50,420
1990 年	29,485
1984 年～85 年	36,955
1979 年～80 年 北米（カナダ含む）	20,068
1974 年	20,257

私は日本語教育の専門家ではありませんが、時代とともに変遷する日本語教育分野に入り込み、先生方と同士として日本語教育について、悩み合い、喜び合い、心配し合ってまいりました。そのことが仕事への本質的な大切さを教えてくれ、同時に仕事への愛情をも膨らませてくれました。これは換えがたい尊い経験として一生心に留めておきたいと存じます。

ご一緒にお仕事をさせて頂き、沢山の事を学ばせて頂いた先生方、本当に有り難うございました。先生方の今後の御健闘を祈念し、謝意を捧げて筆を擱くことと致します。

## 先生の紹介欄



## 先生の紹介欄

### 猪俣公克先生

➤ お名前を教えてください。  
猪俣公克（いのまたきみよし）と申します。

➤ 教えている学校名、町を教えてください。  
City College of San Francisco（シティーカレッジ）で教えています。  
サンフランシスコのいたるところにキャンパスがありますが、私は主に BART の Balboa Station から近いオーシャンキャンパスで教えています。

➤ 日本語教師はいつから？  
チューター、ビジネス研修の講師など、大学院生の時から日本語は教えていたのですが、本格的に教壇に立ったのは、2002 年からです。勤務先は、タイ王国にあるアサンプション大学ビジネス日本語学科でした。二年間教えていたのですが、「学生を教えた」というより、「学生から教わった」というのが本音です。



➤ **ご趣味は？**

空いた時間には、読書をするのが好きです。まとまった時間ができた時には旅行によく行きます。学生のころは中国や東南アジアを旅行していました。特に人がたくさんいて活気がある所に惹かれます。異なる文化や外国語を学ぶのが大好きなので、学生にもその喜びを伝えたいと思いながら、日々日本語を教えています。

➤ **日本の出身地は？**

生まれてから7歳まで名古屋にいました。それから新潟県高田市に二年間滞在し、東京に落ち着きました。一番長く住んだので、東京に一番愛着があります。

➤ **アメリカに来てから何年ですか。**

7年になります。大学院生として3年、教員として4年（最初の一年は Eastern Kentucky University に勤務）経ちました。

➤ **仕事について、何か一言お願いします。**

この夏休みに、シティーカレッジの同僚の方々と作ってきた日本語教科書「がんばろう」（全三巻）がほぼ完成しました。私は第二巻から参加させていただいたのですが、教科書作成の過程で学ぶことがたいへん多く、同僚の方々には本当にお世話になりました。三年間関わってきたプロジェクトだったので、出来上がった教科書を見た時は本当にうれしかったです。この本を使って学生にたくさん学んでもらえるように、これからも頑張っていきたいと思います。課題はいくらでもあり、日本語教師は本当にやりがいのある仕事だと思っています。

➤ **会員のみなさんへのメッセージがあればどうぞ。**

日本語教育、日本語学習者を強力にサポートするコミュニティーを、皆様と一緒に作っていきたくと願っております。今後とも、会員一人一人の方に積極的にご参加いただければ、この会の可能性は無限に広がっていくと信じております。どうぞよろしく願いいたします。

**森川知計先生**



➤ **お名前を教えてください。**

森川知計と言います。「ともかず」と読みます。小中高の時は、三浦家の友和さんのおかげで、かなりからかわれましたが、今は大好きな名前です。

➤ **教えている学校名、町を教えてください。**

現在は、サンフランシスコの公立高校、ワシントン高校で教えております。

➤ **日本語教師はいつから？**

そろそろ20年近くになります。大学等でも教えた経験はありますが、高校教師としての経験の方が長いです。

➤ **ご趣味は？**

昔は、柔道や剣道をしてたんですが、年をとってくると、大人しい趣味が多くなり、最近はウクレレに力を入れてます。後、友達と家でパーティーをするのが大好きで、週に一回は、友達の家や自分の家でしたり、知らない人の家におじゃましたり、しています。色々経験が違う人と会って話をするのが大好きで、毎日の生活も楽しくなります。今週は、トモダチプロジェクトでお会いした日本人の方々とパーティーとメキシコ系の友人の誕生日で、新しい友達も増えました。ありがたい事です。

➤ **日本の出身地は？**

神戸です。神戸の舞子の辺りで育ちました。海が近く、夏は、潜ってシジミを取ったり、魚つりをしてその場で料理したりと、神戸の洋風のイメージとはほど遠い生活を毎日してました。神戸に戻ると、今でも落ち着きます。

➤ アメリカに来てから何年ですか。

20 数年になります。大学卒業後、広告会社に入社して、その関係でニューヨークに渡米することになり、そのままこちらで暮らしております。2 年間の予定だったんですが。

➤ 仕事について、何か一言お願いします。

高校での仕事は、「楽しい」の一言です。学生達が 1 年生の時に初めて会って、そのまま四年間成長していく彼らの姿を見るのは、嬉しいです。卒業していくのはもちろん悲しいですが、次の学期でまた新入生が入ってきます。その幼い顔を見ると今年もがんばってみようと元気になりますね。もちろん教えている専門科目の事も重要ですが、高校では、それ以外にも教えていかなければいけない事も多く、そこに生き甲斐を感じています。

➤ 会員のみなさんへのメッセージがあればどうぞ。

20 年経っても、毎年、新鮮な気持ちで教えていけるのは、元気な子供達のおかげかなあと感じます。日本語を勉強する学生の理由も変化が色々あり、3~4 年前まではアニメ／漫画好きな学生が多かったんですが、最近では、日本のロボット工学や観光地に興味を持っている学生が多く、そんな彼らの漠然とした日本への憧れを授業のトピックに取り入れ、日本文化を日本語で紹介／勉強していくカリキュラムで教えています。すると彼らの憧れが現実への夢となり、日本での留学／就職というカタチで花が咲いていくようです。私たち、教師の仕事は、常に子供達に夢を与えていくことだと思います。「無理かも」と思ってた事が、「もしかしたら」と現実に近づいていくと子供達の見つきも変わっていきます。色んな情報を常に学生に与え、子供達自身がチャンスをものにしていけるような環境をつくっていくのが私たちの仕事だと思います。みなさんもがんばってくださいね。

## 編集後記



オンラインで配布のニュースレターも二回目になりました。オンラインですとカラー写真などを綺麗に載せることができますし、3-D 効果なども使えて担当者一同楽しんでニュースレターを作成することができました。とは言うものの、「過ぎたるは及ばざるが如し」。ハイテク効果の「使いすぎ」に注意しながら、少々秋の装いにしてみました。皆様、ご意見、ご批判がございましたら、是非どうぞ下記までご連絡ください。

須田：[sudak@usfca.edu](mailto:sudak@usfca.edu)

オブライアン：[masakoshimizu@sbcglobal.net](mailto:masakoshimizu@sbcglobal.net)

## 北加日本語 教師会連絡先



### NCJTA Officers

#### <事務局>

<http://www.ncjta.org/>

NCJTA. c/o Fumiko Grant

City College of San Francisco, A58

50 Phelan Avenue San Francisco, Ca 94112

(415) 452-5106

E-mail: [fgrant@ccsf.edu](mailto:fgrant@ccsf.edu)

#### <役員>

会長：Fumiko Grant グラント文子 (同上)

副会長：Nobuko Takamatsu 高松信子

City College of San Francisco/San Francisco State University

E-mail: [nobukot@sbcglobal.net](mailto:nobukot@sbcglobal.net)

書記：Junko Ito 伊藤潤子

University of California, Davis

E-mail: [jito@ucdavis.edu](mailto:jito@ucdavis.edu)

会計：Kimiyo Inomata 猪俣公克  
City College of San Francisco  
E-mail: [kinomata@ccsf.edu](mailto:kinomata@ccsf.edu)

ニュースレター編集：Kyoko Suda 須田恭子  
University of San Francisco  
E-mail: [sudak@usfca.edu](mailto:sudak@usfca.edu)

フランク連絡員: Masahiko Minami 南雅彦  
San Francisco State University  
E-mail: [mminami@sfsu.edu](mailto:mminami@sfsu.edu)

<各レベル代表>

小学校代表：Takeko Morioka 森岡妙子  
Rosa Parks JBBP Elementary School  
E-mail: [taeko3568@aol.com](mailto:taeko3568@aol.com)

中学校代表：Masako O'Bryan オブライアン真佐子  
E-mail: [masakoshimizu@sbcglobal.net](mailto:masakoshimizu@sbcglobal.net)

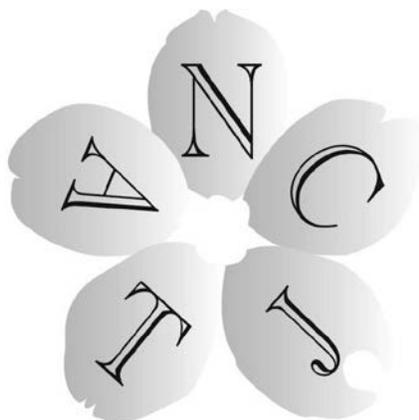
高校代表：Tomokazu Morikawa 森川知計  
George Washington High School  
E-mail: [tomokazu28@gmail.com](mailto:tomokazu28@gmail.com)

学園代表：Minakao Maki 真木 実奈子  
San Mateo Nippon Gakuyen  
E-mail: [minakomaki@hotmail.com](mailto:minakomaki@hotmail.com)

コミュニティーカレッジ代表：空席

大学代表：Wakae Kambara 神原若枝  
University of California, Berkeley  
E-mail: [wkambara@berkeley.edu](mailto:wkambara@berkeley.edu)

---



Northern California Japanese Teachers' Association

# Northern California Japanese Teachers' Association (NCJTA)

## GROUP REGISTRATION FORM for FLANC CONFERENCE

Oct. 27 at San Francisco State University  
See FLANC website for details, [www.fla-nc.org](http://www.fla-nc.org)

*For Oct. 26 FLANC workshops at San Francisco State University, attendees must register individually and directly with FLANC, see website for details.*

Please complete, make check payable to NCJTA and mail to:

Kimiyoshi Inomata  
50 Phelan Avenue A 48 San Francisco, CA 94112

**DEADLINE: OCTOBER 5, 2012 (必着)**

---

### REGISTRATION FORM-PLEASE PRINT

---

Name: \_\_\_\_\_

Email address: \_\_\_\_\_

School Position: \_\_\_\_\_

School: \_\_\_\_\_

*LUNCH? Circle YES or NO*

*YES? Circle VEGETARIAN or NON-VEGETARIAN (CHICKEN)*

Conference GROUP fee-----\$20.00

Box Lunch-----\$15.00

Amount Paid: \_\_\_\_\_

Check # \_\_\_\_\_

Check in with NCJTA representative on conference day at the registration table in order to receive your conference packet. Thank you.

## 会費納入/新会員登録用紙

前年度もしくは前々年度から未納入の会員の方々におかれましては、過去にさかのぼって未納入分はご請求いたしませんので、是非とも今年度分からお支払いいただけますよう、切にお願い申し上げます。2012年度分の会費は2012年4月から2012年12月まで有効となっております。但し2013年度分は1月から12月となります。年会費 一般\$15、学生\$5

Check payable to: NCJTA

Mail to: Kimiyoshi Inomata,

City College of San Francisco, 50 Phelan Avenue A48, San Francisco, CA 94112

Name: \_\_\_\_\_

Affiliation: \_\_\_\_\_

School/office Address: \_\_\_\_\_

Home Address: \_\_\_\_\_

E-mail: Home: \_\_\_\_\_ Work: \_\_\_\_\_

Phone: Home: \_\_\_\_\_ Work: \_\_\_\_\_

.....き.....り.....と.....り.....線.....

## 住所変更/氏名変更等届出用紙

下記のうち該当する変更事項を○で囲み、必要な情報を書き入れてください。変更のない方は、提出の必要はありません。

Mail to: Kimiyoshi Inomata

City College of San Francisco, 50 Phelan Avenue A48, San Francisco, CA 94112

1. 氏名の変更 旧氏名 (漢字/カタカナ) :

(英語) :

新氏名 (漢字/カタカナ) :

(英語) :

2. 住所変更/勤務先変更 (新しい情報だけご記入ください。)

Name: \_\_\_\_\_

Affiliation: \_\_\_\_\_

School/office Address: \_\_\_\_\_

Home Address: \_\_\_\_\_

E-mail: Home: \_\_\_\_\_ Work: \_\_\_\_\_

Phone: Home: \_\_\_\_\_ Work: \_\_\_\_\_